

# 学校だより 春 蘭

3月号①  
2017.3.3(金)

文責 岩根小校長 佐藤勇人

## 教育の原点

昨日の授業参観日には多数の保護者の皆様にご来校いただき誠にありがとうございました。今年度の行事もほぼ終了し、学校では間もなく卒業式の練習にとりかかるころです。

この一年、本校の子どもたちが様々な面で、一生懸命な姿、協力し合う姿を見せてくれたことを心よりうれしく思っています。ご家庭での様子はいかがだったでしょうか。年度のしめくりの月の「学校だより」、教育に関する皆さんの文章を紹介させていただきます。

もう五十数年も前の中学時代の恩師との出会いを思い起こす。中学3年の秋、優しかった母を癌で亡くした。高校受験を前に言葉に尽くせぬ失意。勉強もほとんど進まぬまま、公立高のみを受験し、亡き母のためにも何としても合格したいと心から祈った。しかし、受験発表の朝、合格者の中に自分の番号を見つけないことがなかった。総てを失ったと思っ

た。すぐにでも学校に報告しなければと思いつつ、山手線を何周回ったことか。いつそ母のもとに行こうかとも思った。その勇気もないまま、冬の陽は暮れようとしていた。

今から学校に報告に行く。なぜもっと早く報告に来ないのかと厳しく叱られることは覚悟していた。いや、先生方は皆帰ってしまっても誰も居ないかもしれないと思った。しかし、大きな校舎の中で職員室だけ灯りがともっていた。職員室に入ると担任の久保寺先生がひとり残っていらした。これは大変申し訳ないことをしたとの思いと、「不合格でした」との報告に母の姿が重なり、涙が止まらなくなっていました。

先生は、遅くなったことについて一切叱らず、「そうか、長い人生にはいろいろなことがある。その一つ一つを乗り越えてこそ人は豊かになつていく。人の生きる道は一つではない。これからのことを一緒に考えよう。」と、あたたかい眼差しで語りかけてくれた。その時かもしれない、自分が教師を目指そうとしたのは、この担任の先生との出会いがなければ今の自分はないと思っている。

教職は子ども一人一人の人生を決定づけるまでの崇高な営みである。本当に一人一人の子どもを大切にする真の愛情と情熱、そして子どもたち一人一人が自分は愛されているということを知れば必ず勇気が湧く。それが教育の原点のような気がする。

最近目にし、感銘を受けたある校長先生の文章です。

最終段落の「教職は」の文言は、「子育ては」に置き換えることもできるのではないかと思います。いかがでしょうか。今年度の登校日数も、残り13日となりました。この一年の本校教育へのご理解、ご協力、ご支援に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 新 入生体験入学「いっしょにあそぼう」より

2月17日(金)の3校時目の生活科の時間に、新入生体験入学「いっしょにあそぼう」を行いました。1年生は新入生とのふれあいを楽しみに、これまでいろいろな準備してきました。

「歓迎のことば」の後、1年生が国語で学習した物語の歌や合奏、読み聞かせなどを披露しました。その後、〇×クイズやじゃんけん列車、おにごっこなどをしてみんな楽しく遊んだり、プレゼントを渡したりしました。

新入生のみなさんはみんな楽しく参加してくれました。体育館は少し寒かったのですが、子どもたちの歓声が響き渡っていました。

4月の入学が今からとても楽しみです！



## 楽 しかつたスキー教室

先月の地域版学校だよりも掲載しましたが、教室の様子を再び紹介します。

2月13日(月)、3年生から6年生までの児童であたら高原スキー場に出かけました。スキー教室は、午後風が強かったものの、晴天の中雪質も良く絶好のコンディションの中行われました。年に1回だけの行事ですが、多くの子が楽しみにこの日を待っていました。3年生は初めてで苦労していました。4、6年生はそれなりに経験を積んでいて、かすりで、斜面上り、斜面上り、斜面上りに滑り降り



ることができていました。(裏面に続く)